

令和6年度

小牧市放課後子ども総合プラン運営委員会

(第2回)

日 時 令和7年2月17日(月)

午前10時00分から

場 所 小牧市役所 本庁舎 4階404会議室

令和6年度第2回小牧市放課後子ども総合プラン運営委員会

日 時		令和7年2月17日（月）午前10時
場 所		小牧市役所本庁舎 4階404会議室
学識経験者	愛知文教大学 学び合う学び研究所 シニアフェロー	副島 孝
教育関係者		伊藤 和子
	小牧市小中学校校長会 代表	佐藤 史洋
	大城小学校 教頭	楠 詩帆
	小牧南小学校 学校地域コーディネーター	小石 理佐
	小牧原小学校 学校地域コーディネーター	坪内 里枝
	陶小学校 学校地域コーディネーター	下田 恵
児童福祉 関係者	北里児童クラブ 所長	竹脇 一美
	小木児童クラブ 所長	小川 雅子
	桃ヶ丘児童クラブ 所長	山口 由美子
	村中児童クラブ 所長	梅村 美穂
	西部児童館 館長	安藤 智人
地域住民	三ツ渕小学校 PTA 家庭教育委員	坪井 妙子
欠席	小牧市社会福祉協議会 代表	梶田 光俊
	小牧小学校 PTA 家庭教育委員	加藤 さやか

【事務局】

小牧市放課後子ども総合プラン運営委員会を開催いたします。
私が司会を担当いたします、こども政策課長の小川です。よろしくお願いいたします。それでは、初めに資料の確認をさせていただきます。

事前にお配りしました資料として次第が1枚、資料1、参考資料①から④です。不足等ございましたら、お知らせください。よろしいでしょうか。なお、参考資料①から④につきましては、内部資料ですので非公開とさせていただきます。委員の皆様につきましては、この資料の取り扱いに十分配慮していただきますようお願いします。

本日の傍聴の申し込みはございませんでした。また、会議の定足数につきましては、要綱第5条第2項の規定により委員の過半数以上の出席が必要とされておりますが、本日は15名中、13名の方が出席いただいておりますので、会議として成立しますことを報告いたします。

それでは、こども未来部部長の川尻よりご挨拶を申し上げます。

【川尻部長】

おはようございます。こども未来部の川尻です。よろしくお願いいたします。本日は、年度末の大変お忙しい中、会議にご出席いただきましてありがとうございます。

さて、放課後子ども総合プランにつきましては、令和3年度にモデル事業を開始してから順次実施校を増やしてまいりまして、今年度から全16校で実施することができました。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、各校の体験活動の様子をご確認いただきまして、ありがとうございます。

前回の会議の折にお話をいたしました、今年度の全校実施を1つの区切りとして、この総合プラン運営委員会は今年度いっばいで終了させていただきたいと考えております。

本日は最後の委員会となりますが、今年度実施した合同の体験活動の報告やアンケート結果についてご報告させていただきまして、ご意見やご評価をいただいた上で、これまでの活動を事務局で取りまとめさせていただき、令和7年度からの活動につなげていきたいと考えております。最後の会議となりますので、言い残したことがないように忌憚のないご意見をいただくことをお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

【事務局】

それでは、ここからの進行につきましては副島委員長にお願いいたします。

【副島委員長】

それではお願いします。部長からの挨拶もありましたように、本会の最後の会合になります。今年度で終わりですが、終わった後にも続くようなものを出していきたいと思っておりますので、お願いします。

まず、議題の(1)令和6年度事業について、合同の体験活動実施状況アンケート結果、評価について事務局から説明をいただきます。

【事務局】

6年度事業について説明します。資料1をご覧ください。放課後子ども総合プランの事業実施報告書として6年度の活動をまとめました。

1ページ、2ページをお願いします。合同の体験活動の実施状況です。16校の実施日、参加人数、実施内容をまとめました。星印のものが本格的な活動です。この表にあるように、各校放課後子ども教室と児童クラブの従事者が相談し合って内容を決めてきました。お互いのアイデアを出し合って内容を決め、講師を探し、人数を決め、ということで進めてきました。どの活動も子どもたちが楽しんで参加できるような内容で、飽きないような工夫がしてあります。実施して出てきた課題については、お互いに話し合って課題を解決しながら次の活動に生かしてきています。

また、数回あるうちの1回、2回を児童クラブ中心で企画するという分担をして協力し合う学

校も増えてきました。長く続けていくには、両者の連携、相談、協力が大事だと思います。

それぞれの活動時の様子については、別冊の参考資料②をご覧ください。事前に配布してありますので、お目通しいただいたかとは思いますが、活動終了時に報告書を出していただいておりますので、それを印刷しました。プランの運営委員の皆さんに見学していただいた活動を選びました。色々な気づきや感想、次への課題などが書かれています。次の活動に生かしていけるようにと思っております。それから、皆さんの感想も参考資料④として印刷させていただきました。参考にご覧ください。

参考資料③として講師の一覧もお配りしました。毎年ちょとずつ増えてきています。この蓄積をみんなで共有していきたいと思っています。また、講師さんに依頼する時には全てお任せですが、内容の中の一部で子ども参加にしてほしいとか、時間配分はこうしてほしいとか、こちら側の要求も伝えて講師依頼をしていただきましたので、今後もこのように続けていけるといいと思っています。

そして、この活動の内容や講師の情報は市内全体で共有したいと思っています。学校間でお互いに聞きやすい関係作りができてきているように思います。日程的に難しい部分はありますが、自分の学校以外の活動を見学に行ったり、講師についての情報を聞いたりして、横のつながりもできてきていると感じられて、ありがたいと思っております。

今後も、学校を超えた部分でも連携をしていけるといいと願っております。

資料1の4ページに戻ってください。アンケート結果です。全校実施になりましたので、児童と従事者は全校分、保護者は今年度始まったところのみアンケートを取りました。1枚ずつ読み上げるのを控えさせていただき、総括として4ページの下からまとめてありますので、その中から抜粋してお話をさせていただきます。

①ほとんどの活動で楽しかったと回答した児童がたくさんいてよかったと思います。ただ、一部、「楽しくない」「もうやりたくない」と回答した子もいました。子どもの興味関心はそれぞれで、工作が好きな子、音楽が好きな子、色々ありますので、全員が「楽しい」という活動は大変難しいと思います。それを解決するためには、何回かある活動の中で工作があったり、音楽があったり、体を動かすことがあったりというように工夫をしていくことで、より楽しい体験ができるのではないかと考えています。

③児童が今後やってみたい活動は、やはり工作が1番多いです。次にダンス、プログラミング、音楽鑑賞という順に並び、自由記述のところでは圧倒的に体を動かすこと、運動を希望している子が多いという結果でした。保護者もだいたい同じような希望でした。

④どんな活動をさせたいかという保護者への問いに対して、「今もうすでに豊かな活動をさせていただいているので非常に満足しています」という意見や、他の学年との交流を望む声もありました。

⑨従事者の意見の中で、「子どもたちの笑顔が見れて嬉しくなった」「普段は見られない姿を見ることができた」「予想以上に子どもが夢中になって作っていた」という意見もあり、読んでいるこちらもほっと心温まる気がしました。

⑩の気になることについては、学校ごとに話し合って、次への課題にさせていただければいいと思います。

⑪先ほども言いましたが、自分の学校だけではなく、他の学校の実践、課題解決に向かった経験などを見たり聞いたりすることで、いいアイデアが浮かぶこともあると思いますので、今後も遠慮なく見学に行ったり、市内全体で情報共有したりしながら進めていけるといいと思います。

このアンケート結果については、この後、各学校の分は各学校に配り、今後にいかしていただきたいと思っています。

【事務局】

資料の1の5ページ、6ページをお願いいたします。

(4) 放課後子ども総合プランの周知方法につきましては、そこに記載の通りとなっております。

(5) 放課後子ども総合プランを推進するための活動を表にまとめております。7月16日に、今年度実施校16校の児童クラブ所長、指導員と放課後子ども教室の従事者を対象に情報交換会を

行いました。今年度の活動内容、講師、消耗品などについて情報交換を行いました。

また、児童クラブの所長会議や学校地域コーディネーター情報交換会などでも総合プランについての活動報告を行っていただきました。

7 ページをお願いいたします。「令和 6 年度事業に対する評価」ということで、令和 5 年度末の令和 6 年度の活動に対する提言を受けて、その実施状況をまとめました。

①についてです。消耗品費につきまして、学校によって人数が違うことを加味して予算配当をしたらどうかというご意見を受けまして、全校実施となった今年度は、各校の実施回数と市の予算差額分を学校の児童数に合わせて再配分をいたしました。増額分を有効に使うことができたと考えております。

②についてです。こちらは、実施校の情報交換会やそれぞれの会議で、実施報告や講師の活用の情報などを共有することができました。以上となります。

【副島委員長】

必要な部分を強調して説明していただきました。今の説明に対して色々ご質問やご意見があると思いますので、よろしくお願いします。いつも言っておりますが、この会では必ず皆さんに発言をしていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

だいたい中身が分かってきて、だんだん学校数も増え、情報交換もできて、皆さんが総合プランについて分かっているという状況になってきましたが、遠慮なさらずに色々言っていただきたいと思います。

よろしいですね。今年度の実施については質問もないようですので、報告の通りということ です。

では、議題の（2）令和 7 年度以降の事業についてに移ります。これに関しては今日が最後で、この運営委員会自体がなくなるので、必要なことは言っていただいて、反映できるものは最終の報告書に反映させることが大事だと思いますので、よろしくお願いします。では、事務局お願いします。

【事務局】

資料 1 の 7 ページ、「令和 7 年度（今後）以降の活動について」をお願いします。

第 1 回の運営委員会でもお話しいたしましたが、今年度 16 項全校実施となり、各校順調に進んできております。本委員会は、本市の実情に応じた総合プランの運営に関し必要な事項を検討するため、令和 3 年 4 月に設置されましたが、一定の役割を果たしたと考え、今年度で閉じさせていただきます。

7 年度以降も総合プランは続けて実施となりますので、7 から 9 ページに記載した内容で継続していきたいと考えております。

①の情報交換会の実施についてです。活動内容、講師、子ども教室・児童クラブ双方の連携などについて、市内全体で情報共有して進めることが大事だと思いますので、情報交換会は継続して行います。また、都合が合えば他校の活動を見学に行き、自分の学校の活動に生かしていくとよいと考えます。

②活動の内容についてです。児童の趣味、思考は様々です。活動の内容によって楽しい、楽しくないと個々の感じ方は変わってきます。全員が楽しいと思う活動を考えることは難しいので、工作、運動、音楽、劇など色々な分野の活動を工夫していけると良いと思います。そのためにも学校間の情報交換は大切で、また児童館との連携も是非継続して進めていくと良いと考えます。

③から⑧につきましては今まで通りとなります。

⑨の消耗品につきましても、実施回数が決まったところで差額分を増額する予定です。また、活動していく中で、より良い予算の執行につきまして、検討しながら進めていきたいと思 います。

⑩アンケート及び活動実施報告につきましては、今後はなしという形で考えております。

⑪以降も今まで通りとなります。このように今後も継続していきたいと考えております。

続きまして、本日配布させていただきました「3 令和 7 年度以降の活動に対する提言」をご覧ください。

事務局の案という形で 4 点について伝えさせていただきます。

①予算について。総合プラン運営委員会がなくなるため、予算に関して要望する機会等がなくなります。必要な時に予算がつけてもらえるような、要望ができる体制をとっておくと良いのではないかと。例えば、情報交換会などがそれに当たると思います。

②児童について。今後、多国籍児童や特別支援学級及び特別な配慮が必要な児童も参加児童として増えてくる可能性があります。総合プランの活動で配慮が必要な児童への対応について、アドバイスや相談ができる体制があるとよいのではないかと。

③について。総合プランを継続していく前提として、放課後子ども教室と児童クラブがそれぞれ円滑に運営できていることが必要です。特に従事者の確保について、十分な人数が確保できるような仕組みを検討していく必要があるのではないかと。

④内容について。アンケート結果からも児童や保護者の希望が多いプログラミングなどについて、今までは実施していなかったかと思いますが、例えば地元の NPO 法人などと調整をして各学校が利用できるようになるといいのではないかと。

⑤として学校再編のことを少し入れたらどうかと考えております。今後、統廃合が行われた後も引き続き総合プランを続けていけるような形を検討していけたら良いのではないかと考えております。

以上、案として 5 つを説明させていただきました。実際に活動されている方、様子を見られた所感などもふまえて、追加や修正などのご意見をお伺いしたいと思います。

続きまして、マニュアルについてですが、例年、実際に事務を行っていただいている方々の参考とするためにマニュアルを配布しております。今年度は特に訂正、修正する部分が非常に少なかったもので、資料として配布はしておりません。

アンケートがなくなる、実施報告書がなくなる、貸し出し用の鉛筆がなしになる、そのような簡単な修正となります。実際の従事者の方には令和 7 年 4 月 1 日版として、学校を通じて配布したいと考えております。

以上です。

【副島委員長】

7 年度以降の活動について説明がありました。皆さんにも送られたのは、9 ページまでのものだと思います。打ち合わせをした時に、この会自体は、当初の目的を果たしたから終わりますが、この会がなくなった後も、この総合プランが充実するような形で進んでいくものをきちんと最後に出した方がいいと思って、「提言」を出してもらいました。

僕も学校はたまにしか行かないのですが、以前に比べると特別支援学級がすごく増えましたね。国際学級も非常に多いです。多いということは充実しているということで、いいことです。放課後子ども教室や児童クラブには、そういう子はいないのか、いないなら、そういう子が希望できないのか、希望できないのなら問題です。でも、配慮する児童がいて、困っているけど、なんとかやっていますということなら、これからもっと大変なのかもしれないから、手立ては必要だと思います。

今、いろんな仕事で人手不足という話をよく聞きます。学校の先生も足りない時代になってきているので、従事者を探すのも大変、維持するのも大変です。なので、待遇も含めて先手を打っていかないと、困って、子どもにしわ寄せがあってからどうしようということになっては困ります。市役所でも、正規じゃない人も雇っていますね。人材の確保は年々難しくなっていると思います。今は民間も、ものすごく人手不足で困っているような状況だから、この問題だけではなく考えていかないと、後手に回るといけないと感じました。

児童アンケートの中でプログラミングを希望する子どもが多いという結果がありました。プログラミング教育は学校もやることになっていますが、大変ですね。負担が大きい、やったことのない人はお金もかかるのではないかと思うかもしれないが、やり方次第でほとんどお金のかからないやり方もあります。学校なら無料で使えるプログラミング用の資料などが、たくさん出ています。有名なのは、スクラッチという簡単に組み立てるものもあります。親の立場か

らすると、これからの時代はそういうこともある程度できないかなと思うようです。

学校教育ではもちろん行うが、半分遊びみたいにしてやっていけば、みんなが好きということはないが、好きな子は好きでやれるし、1人1台タブレットを持っているので、それを使えば新たに用意しなくてもできる。次に、誰が指導するかという問題になるが、それは、そういう指導をするようなNPOが小牧市内にもあるので活用するといいと思います。「プログラミングは、難しそうだから私たちにはできない」ではなく、試験的にタイアップしながらやってみて、結果を共有していくといいと思いました。

学校再編後もきちんと続けていくということも書いていただきました。皆さんから、実態をふまえてのご意見や、自分のところの経験を元にしたご意見など、どのようなことでも結構ですので、お話ししていただけるとありがたいと思います。

【伊藤副委員長】

提言の中の「プログラミング」ですが、こども未来館のラボで、有料か無料かわからないですが、活動を遠目から拝見した経験がありますが、その団体について把握していますか？

【事務局】

こども未来館でプログラミングやっていることは知っていますが、こども政策課としては把握しておりません。

【伊藤副委員長】

各世代のお子さんたちがそこに来て遊び、いつもいっぱいです。小中高生が楽しみにしているので、あの活動にも目をやって、うまくいっていることだったら取り込むという繋ぎも大事だと思います。提言に書いていただくのもいいですが、連携を深めるという言葉だけではなく、行動に移していかないと進めないと思います。お子さんたちが幸せでハッピーな笑顔がたくさんになるようにいろんな経験を小さい頃から重ねていくことが大事だと思います。皆さんがいろいろ指導していただいているので、できることを一緒に繋いでいくようにちょっと努力していただけたらいいと思います。

また、⑩の「アンケートと報告書なし」についてですが、この報告書にすごく大量な情報が入っていると思いますが、これからどういう形で把握される予定ですか。

【事務局】

活動実施報告書はどうなるのかということですが、放課後子ども教室側からは引き続き活動日誌という形でいただきます。児童クラブ側からの報告書がなくなるという形を想定しております。

【伊藤副委員長】

両方の意見をどこかでまとめてあげられるといいと思います。

アンケートは見るものからすると参考になることもあります。いろんなやり方があると思います。この実践は、他の学校にも参考になるということを担当の方が把握して、それを詳しくしたり、抽出してやったりして他の学校にも参考になるというようなものがあればいいと思います。全校すべてやるということではなく、ちょっと面白い取り組み、講師を見つけた経緯、問題点、こどもの反応など抽出して実施するという方法もあります。全校に全部書けということではなく、やり方は色々あると思います。

【事務局】

実施報告は、放課後子ども教室は今まで通りで、児童クラブも毎月実績報告を提出していたっているので、その中に総合プランでの様子を報告していただければよいと考えています。

両方の報告は今までと変わらず読みます。また情報交換会やそれぞれの会議があるので、そこでの報告は続けていきたいと思っています。

アンケートについては、必要なら様式はこちらにあるので、子どものアンケートを取ってみたいなどのご希望に沿う形ではできると思っております。形を変えたいとか、実際に子どもの

様子を見てわかる部分もありますが、実情に応じてかなと思っています。

【伊藤副委員長】

アンケートを取ったから、このプログラミングも洗い出しができています。やりたくないという意見もあんまり軽視しないで進めたい。従事者の方から見た様子と、お子さんが家庭で話すことは違うということも見えてきました。私はそこは問題かなとずっと思っていたので、一方的ではなく相互にということをやっていただきたいと思います。

【副島委員長】

そうですね。今の件に関しては負担にならないように、だけど皆さんには参考になるような形でということで、こども政策課でちょっと考えていただければいいと思います。いちいち全部保護者もアンケートをしなければいけないという形になって嫌がられるようでは困ります。他の学校にも参考にして欲しいからこそ、ここに関してはアンケートに協力してくださいという形なら、また話は別になるかもしれない。今のようないい意見があったということを留意して、今後に生かしていただきたいと思います。

【梅村委員】

今のアンケートですが、子どもは1回目やるときは、アンケートは一体どんなに大変なんだろうと、すごいブーイングでしたが、1回やってみればそうたいしたことはないということがわかって、次からは苦にもせず書いてくれました。

【伊藤副委員長】

では、機会があればお子さんにもアンケートをぜひ取っていただいて、子ども目線でこの活動を進めるべきだと思っているので、やはりないがしろにはいけない。大人目線だけではなく、子どもたちは今どう思っているかどう考えているかを常々考えるためにも、アンケートは、従事者の皆さんにも刺激になるし、これからの活動に活かしていくべき点が洗い出せるし、見出せると思っています。負担にならない程度で、ぜひお願いしたいなと思っています。

【安藤委員】

ちょっと主観も入っているかもしれないですけど、児童館の立場から感想を話します。まず1点目は、先生たちがすごくよくやられていて感心しています。と同時に、ちょっと気になるころがありまして、それは子どもに対する対応の仕方です。どうしても、管理しなきゃいけない、運営しなきゃいけないということがあって、やはり上からになってしまって、子どもに対してきつい言い方になっているように感じました。「並ぶまではやらないよ」とか。当然そういうことも絶対あると思います。その気持ちもすごくわかりますが、やはりそういう言葉が子どもの人権侵害に関わるような発言であったり、そういうことに繋がってしまったりしては、どんなに楽しい活動であっても、その一言（その職員の対応1つ）によってつまらない活動になってしまうかもしれないと思います。これから総合プランも継続していくという意味でも、やはり従事される人材が大事で、より良くしていくために人材のスキルも上げていただきたいし、もっともっとよくしていきたい。子どもたちのためにもそういった研修や、従事される方のこれ以上の負担になってはいけないですが、研修が市の指導の中であってもいいと思いました。

先ほど発達障害についてもありました。気になる子はいっぱいいますが、そういった子たちに対して、従事者の方たちがどう対応していくのかを、市が主催の研修があるといいと思います。こうすればいいということがわかると、先生たちもちょっと楽になるのかなと思いますし、横の繋がりで、現場の先生たちレベルでも人と繋がりがあると困ったときに、どうしたらいいのかをもっとざっくばらんに話し合える。そういった横の繋がりがもっともっと出てくると、こういう会議じゃなくても話せるのかなと思いました。

子どもたちは、放課後に日常ではないことをやるので、気持ちが高揚して、すごく楽しそうです。本当にこの活動をしたらすごくいいなと思いますので、それも支える従事者の方たちが

あつてのものだと思います。今のことでいっぱいいっぱいかもしれませんが、ちょっと研修がヒントになればいいなと思います。

未来館のコンテンツも活用すればいいと思います。そして現場の方たちがもう少し楽になったり、やりやすくなったりしていくといいと思います。

【副島委員長】

児童館だと、上から子どもに命令することはないですね。だからこそ、わかるということだと思います。

【小石委員】

配慮が必要な子ということでちょっと悩むところがあって、私たち地域コーディネーターだけではなく指導員にも、そういう子たちの対応についての研修会があるといいなと思います。先日のことですが、椅子を振り回す、外へ飛び出すということがあって、どこで声掛けを間違えたのかなとかすごく考えてしまい、どうしたらこの子に伝わるのかなと考えました。私たちはボランティアなので、特に資格もないし、勉強してきたわけでもない。ただ近所のおばちゃん子どもたちを見るという感じで集まっているので、研修的なものは必要かなとは思っています。

【副島委員長】

実際に、ちょっと障害があるかなとか、外国籍の方で日本語がちょっと自由じゃないなという子も入っているのは事実なのですね。発達障害は、我々が現役で学校にいた頃と比べるとものすごく発達しています。対応の仕方や理解もものすごく変わり、昔はなんとかおさまってくれないかなぐらいの話だったのが、今は、スマホのゲームで発達障害の発作を抑えるようなものさえできているという話を聞いたことがあります。

対応も、今から考えると、専門家といわれる人も20年前はいい加減なことを言っていたなと感じることもあります。だから、今の状況の中で気をつけた方がいいことなどの研修をやってもらう機会は必要だと思います。学校でも同じことだと思います。

【竹脇委員】

発達障害の子に関してです。先日の総合プランで、放課後子ども教室にも児童クラブに発達障害の子が入っています。その子は、活動には参加しませんでしたがお互いに名前も知らないその2人が、この活動ではなくて、その子と一緒にいることが楽しいようでした。なので、たまに声はかけますが、あえて活動に引っ張り込まず、2人で机の下にいましたが、その子と一緒にいることを楽しんでいるようなので、その子たちはその子たちで、今日はこの活動のここが楽しかったと感じているようだったので、そっとしておいたことがありました。

その子たちにとってはその時間はそれでよかったのだと思いました。

【副島委員長】

面白いですね、今の話は。すごく面白いなと思いながら聞いていました。ほかにもどんな違う話でもなんでもいいですから、気が付いたことを言ってください。

【小川委員】

私も、児童クラブの方は放課後子ども教室と違って、毎日必ず関わっている子なので、障害を持っている子もこちらがよく理解して接しています。なので、総合プランの活動の内容を考えて参加させるかどうかを考えています。この活動だったら、この子は大丈夫、この活動は難しいなという子は行かない形です。その1時間は子ども教室の子も児童クラブの子も楽しめる形にするために、こちら側で行く子、行かない子を分けています。1年間付き合ってくると、すごく子どもたちのことがよくわかるし、学校とは違う態度がすごく出てくると思います。家庭に帰ってきているようなイメージなので、学校では見せない態度で、わがままになることもよくあることなので、その辺も含め、この子にどう声かけをしたらおさまるかをかなり色々試したり、職員間で「この言葉がけがよかったよ」と話し合いをしたりしています。

11月に児童クラブ主体で総合プランを実施しました。子どもたちのことを理解できてからの活動だったので、楽しめそうなもの考えることができたので、時期というのも大切だなと実感しました。今年初めてやってみて本当に子どもの姿が新鮮で、子どもの様子もよくわかったので、今後も活かして活動していきたいと思います。

【山口委員】

今年度は5回の活動があり、当クラブは毎回1人も嫌がることなく参加できたことが素晴らしいと思っております。コンサートやリトミックの活動では、音に敏感な子もいて心配しましたが周りの子たちが手をつないでくれたりして、その子たちも楽しく参加できました。

私たち指導員は障害のある子に対して、周りの子たちが気遣ってくれていることでたいへん助かっています。よく観察し、どうしても無理になった時には支援に入ります。顔つき・目の様子でわかりますので、支援員同士声を掛け合い対応しています。

今回の講師は音楽療育の方だったので、入れない子に対して楽しく素敵な言葉がけをしてくださっていたのでスムーズにいき、彼らも次への楽しみが持てたようです。

【梅村委員】

うちも特別支援学級の子がいまして「参加する」と言いますが、次の日になって心配なことが出てきたみたいで、お迎えの時に、お母さんに自分の不安な気持ちを話して、親子の会話の中で参加するのをやめたこともありました。そのお子さんも、不安をもちながら、抑えられなかったらどうしようと考えていたのかもしれないなと思いました。

【坪井委員】

うちの子どもは児童クラブに1年から6年生まで行っていて、6年生にもなると児童クラブの人数も減ってしまって、限られた子しかいません。しかも、この活動が始まったのが2年ぐらい前からで、最初の時は強制的に行かされる感じがありました。子ども教室にどういう子が来るかがわからないということでした。引っ込み思案とか内向的ということもあって、なかなかすぐに打ち解けないところがあります。内容がいやだというよりも、6年生にもなると、仲のいい子がはっきり分かれてしまうので、同じクラスにいても、繋がりがいい子もいます。

今年は強制的ではなく、本人は全て納得して児童クラブに行っていますが、合同の会があるたびに、「行きたくない」ということがあり、周りの6年生でも、やはり6年生にもなると、他にもっと楽しいことがあって、なかなか、みんなで共通で何かをやろうという雰囲気がありません。元々小学校の人数が少ないですけど、さらに来る子も少ないし、今後、児童クラブの子が、(4年生から6年生が対象)行くのかなと思います。先生たちがすごくご苦労されてやっているのはすごいと思いますが、どういうふうに子どもたちに声掛けをしていくといいのかと思います。今後継続していくには、内容もそうですが、子どもが行きたいと思えるような声かけも必要だし、もっとアピールする方がいいのかなと思います、継続できるかがちょっと心配です。

【副島委員長】

無理やり行く必要もないですが、やはり子どもにとって「参加したいな」というような魅力があるような内容ということも大事になってきますね。

【坪内委員】

アンケートを見せていただいて、こうやってお話を聞いていると大変だなということはわかります。合同でやるには、講師や人数の制限を考えます。人数制限をして全員ではなかったり、全員だと「行きたくない」子がいたりして、大変さが必ず児童クラブの先生たちのアンケートに記されていたので、今日こういう話が聞けてすごく良かったと思います。私も人数が多い学校なので、全員が参加できるのが4回中2回でした。やはり場所によっては人数の限りがあって、選ぶのが大変だったと思います。うちの放課後子ども教室は低学年のみなので、4年生、5年生、6年生までが対象となると魅力あるもの考えるのに本当に内容が難しくて、身動きできないところもあります。

でも、平成3年からは始まって、4年間続けてきた中で、さきほど話題に出た「リトミック」をうちもやりましたが、90何人という大人数でしたが、子どもは本当に楽しくて、初めてでしたが、児童クラブの子たちと放課後子ども教室の子たちが混じって丸を作ってやっていました。講師の先生が「予定の半分しかできなかった」っておっしゃって残念がってくださったのですが、講師の方の配慮もあって、本当に子どもたちは初めてのことだったけど「楽しかったよ」と言って、いつも児童クラブの子どもたちと一緒にやるのはすごく楽しいみたいです。

【副島委員長】

今思うと、最初は心配だったプランですが、やってみて、私たちもすごく勉強になりました。子どもたちが楽しく、安心安全に暮らしていける中の1つのものだと思うので、私たちも勉強しながら、お互い子どもと従事者の方も成長していきたいなとすごく感じます。

【下田委員】

この会議に参加すると、児童クラブさんの考えが分かります。参加されていない方もいます。アンケートとか活動報告などは提出しています。コーディネーターの情報交換はありますけど、総合プランの情報交換は最初の時だけで、そんな内容的な情報交換っていうのがないので児童クラブの従事者の方がどうやってやっていらっしゃるかという話が聞けると、連携してやりやすいのかなと思いました。

【副島委員長】

その辺のことも必要になりますね。仲間内だけでは、それはそれで参考になるけど、こういう総合プランみたいな形でやるという前提で考えると、児童クラブと放課後子ども教室相互の理解もいるという部分ですね。

それから、配慮が必要な子もいるよという話をしましたが、その子たちがこうでなくてはいけないというのは間違いで、実は今はっきりしているのは、その障害かどうかの境界はあまりないということです。

自分たちのまわりを見ると、この人はちょっと落ち着きがないとか、他の人とうまく溶け込むのに時間がかかる人もいます。僕は、机の上がぐしゃぐしゃになるけど、きちんとしている人もいますよね。だけど、ぐしゃぐしゃになる人もきちんとしている人も、それが個性なんですよ。気をつけなきゃと思っていてもそうになってしまうことがあります。だからといって社会生活がうまくいかないかというと、そんなことはないです。あの子たちは特別だからもう将来もダメだということはありません。やはりそういうことも配慮しながら一緒にやれるということが大事なことだと思います。

【楠委員】

特別な配慮が必要な子について、児童クラブの方から問い合わせがあります。そういうときは、そういう子たちはそれぞれ1人1人個性が違うので、どんな配慮が必要かということは伝えていかなければいけないと常々思っています。私たちも連携をして、情報共有をしてきました。この子はこういうことに気を付けるといいということをちょっとした機会にも話しています。

この何十人を束ねるのはすごく大変なことだと思っています。しかも個別に配慮が必要な項目が多くて大変な中、しかも放課後の活動なので、子どもたちは、授業を受けている時とは違って自由にはしゃぎ回っている姿を私も見ました。あの子、教室ではもうちょっと大人しくしているんだけど、ここに来ると全然言うこと聞かないし、走り回っているということもあり、大変ご苦労されて対応していただいていると感じています。でも、うちの学校のコーディネーターの方も、子どもたちはこうですからと広い心で受け入れてくださって、ありがたいなと思います。

本当に大変なお仕事だと思いますので、長年やられている方が今年度で終わりますと言われる、大変困ってしまいます。次が見つからないと思います。だから、この③に記載の従事者の確保は、今後大事だと思います。

指導が求められるようなことを保護者からは期待されるような場面もありますので、やはり

それなりの研修とそれなりの待遇を考えていただくといいと思います。

【佐藤委員】

毎回感謝しています。児童クラブの顔、放課後子ども教室の顔、合同の総合プランのこの3つもまた顔が違います。学校は、教室で子どもたちが座って、そこが居場所です。学校という場所では、お家の方もそういう話をしていただけるので、よそ行きな顔をしているのかもしれませんが。放課後になると、それぞれがそれぞれの顔で、少し肩の力を抜いている子もいっぱいいる中で、色々対応していただけることがたいへんありがたいと思っています。

外国籍児童や特別支援学級の児童が、うちの児童クラブにもいます。いつもと違う場所だと落ち着かないという要望がありました。いろんな要望や配慮の必要なことが増えてきています。今後、こうやって、学校と、放課後子ども教室と、児童クラブでの対応はちょっと違うかもしれないですが、連携をとってうまくいくようにすすめたいと思います。

学校の担任も、勉強はしますが、手探りな部分があり、やってみたら、これ良かったといことを、担任や学年の先生、主任、前担任の先生方と相談しながらやっています。ぜひ今後、学校に相談していただけるといいと思いますので、よろしくお願いします。

【副島委員長】

いろんなお話をさせていただいて、ありがとうございました。

長年やっているとスキルがあがっていくという話と向上していく方向を間違えないように、研修のような機会があるとそれもやれるのかなという話がありました。

たまに学校に行くと、国際学級とか特別支援学級で、3人ぐらいしかいないところで若い先生が黒板の前に立って、授業している姿を見かけます。隣の教室に聞こえるぐらいの大きい声で説明しているから、「あなたが座るといっぺんにムードが変わるよ」と言うことがあります。この3人を相手にしているのにどうして立っているのかと思います。学校の先生でも、そういうクラスを初めて持った先生はよくそうやってしまう。3人がいるところに自分から入って「こうだね」って言えばすんなり始めれるけど、黒板に立って説明していてもなかなか子どもは言うことを聞いてくれません。

資格を持っている人でもそういうことがあるから、本当にいろんなことで学ぶ機会があります。よく子どもから学ぶということがありますが、なぜうまくいかないのかなと、子どもの姿をよく見るとヒントがいっぱい出ていることがあるので、これは学校に限らず皆さん方もありますよね。

子どもの素の姿が出てくるので、対応を間違えるとむちゃくちゃになってしまうことがあるので、大変な仕事だということを事務局の方も理解していただきたいなと思います。学校の先生以上に大変な側面があるから、従事する人たちの確保と待遇はほんとに考えなければいけないとつくづく思いました。

この会としてやれることはそんなにたいしたことではないですが、そういうのを次に残しているということが、（一応ここで一段落するわけですが）この会が存在したという理由かなと思いますので、終わりたいと思います。

【伊藤副委員長】

研修はトップの方はよくご存じで、いろんなことを把握してらっしゃって、この場はこれで収まりますが、この方々の下にたくさんの方がいらっしゃるので、そこをやはり改革していかなければいけないと思います。参加してくださる人たちを上手に、いろんな場面で適応していけるようにしていくということが、最終的には子どもにかえっていくので、やはり研修は侮れないと思います。各所の数名ずつでいいから、年度ごとに研修をやっていくことは早急に手立てを打たないといけないことではないかと思います。もうかなり前から感じてはいましたが、トップの皆さんも、試行錯誤で合同をやってみえたから言いませんでしたが、もう最後なので、本当にそこは、いい人材も集まるようになると、ちゃんと手立てをしてくださり、行政がバックアップをきちんとしてくださるとなれば、もっと従事者も増えると思うし、そういう研修的なことや、相談に乗ってくださる温かい受け皿は大切なので、そこはお願いしたいと思

います。

【副島委員長】

提言の②のところの最後の方に「アドバイスや相談できる体制があると良い」というのは、例えばこの子の対応に困っていると言った時に来ていただいて、ちょっと様子も見ながら、「僕ならこうやってこういうことをちょっと試してみる」とか、一緒に入ってくださるような人がいると、いざとなったらあそこに相談しようということになる。例えば、相談できますよというだけではなく、バックアップみたいなものも必要です。この子は発達障害という診断がつきますとか、この子はこういう症状ですとかを判断できる専門家です。

例えば、読み書きが非常に苦手な読み書き障害（ディスレクシア）、専門家に言わせると8パーセントいるということはクラスに3人はいるということですね。読んだり書いたりすることが苦手というのは、学校の中では本当に困りますね。読んだり書いたりすることが学校の中心ですからね。そういう子も調べたらたくさんいるということです。だから、その子たちを見ないようにするのはではなくて、その子たちも一緒になってやれるようなことが大事です。

学校でも、そういう時にアドバイスをしてくれるところが欲しいと言うのと同じように、放課後のことにも必要ですね。相談に乗ってくれたり、その子の様子を見て言ってくれたりすることが必要だし、今後、ますます必要になると思うので、市の方でもよく考えていただいてやっていくと本当にうまくいくと思います。

なかなか要望をする機会がないかもしれないから、最後の機会にもう言いたいことみんな出してありますが、そういう意味で受け止めてもらって、上手に使っていただければいいと思います。行政の方は、市役所の中で予算要望とかそういう人的な配置については、他の課からの要望もあると言われて終わりにになってしまう可能性はあるけど、こういう運営委員会から言われているからやはり対応せざるを得ないということに使っていただければいいと思っています。

【事務局】

研修のお話がいくつか出ておりますが、児童クラブにつきましては、年間の研修計画を立てて、全職員を対象にした療育研修などを毎年実施しております。また、職責に応じた所長、指導員向けの研修や、配慮が必要な児童に対応するための研修を全職員向けに案内し、行っています。

放課後子ども教室につきましては、全安全管理指導員を対象に、研修を実施しておりますが、これまでは活動内容を楽しむための内容で実施しておりましたが、今日、このようなご意見をいただきましたので、配慮が必要な児童にどう接していったらいいかという内容の研修も検討していきたいと思っています。

また、先程、下田委員から、普段、児童クラブの先生方がどう考えているのか共有できると連携しやすいと穂意見がありました。今は合同の情報交換会が1回しかないですが、そういう研修を合同でやることによって、グループワークを通じて児童クラブと放課後子ども教室の指導員の、互いの思いも共有し合えると思いますので、合同の研修も今後考えていきたいと思っています。

アドバイスできる相談体制につきましては、児童クラブだけで言いますと、令和6年の4月から、教員OBの方に児童クラブを毎日巡回していただく巡回アドバイザーを配置しました。児童クラブの先生方が、日頃からどう関わっていいかわからないという児童への対応の悩みを聞いたり、運営自体が円滑に行くようなアドバイスをしていただくことを目的として配置しております。また、個人に応じて深くアドバイスが必要な時は、専門の方を派遣し、実際現場に行き、この子にはこう関わるといいよというアドバイスをいただくことも行っています。

総合プランについても相談がありましたら、こども政策課にこどもとの関わりに色々知見を持っている経験ある職員もおりますので、これまでどおり、相談にのったりアドバイスしたりして、引き続き相談体制を作っていきたいと思っています。

【瀬尾主事】

今回、提言の中で学校再編について追加されました。大枠（アウトライン）はホームページも含めて示されてはいますが、具体的にどうなっていくのかということがまだ示されていない

です。東部地域がどうやっていくのか、地区と地区がどうやっていくのか検討されていきます。準備段階として合同でやろうと言っても、なかなか人を動かすことは難しいことだと思うので、方針が示された時に、円滑に進めていくために、情報交換をしたり、いろんな場面で話をしたりしていくと思っております。具体的なことはまだ申しませんが、いずれ出てきますので、よろしくお願いいたしますと思います。

【副島委員長】

どうもありがとうございました。皆さんから活発な意見をいただいて、この会議は今日で終了になりますが、最終報告が出されると思いますので、それも上手に今後行政の方も活用していただけたらいいと思っております。

議事はこれで終わります。ありがとうございました。

【事務局】

それでは、「次第3 その他」についてです。資料の1の令和6年度小牧市放課後子ども総合プラン事業実施報告書につきましては、実績等が確定いたしましたら、教育委員の皆様へ報告いたしまして、その後、校長会にもご報告をさせていただきます。

委員の皆様におかれましては、本日、貴重なご意見をいただき、また、これまで複数回にわたる委員会にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

今年度は全小学校16校で実施し、運営委員会でいただいた意見を基にこれまで進めてまいりました。今後も児童クラブと放課後子ども教室が無理のない活動を念頭に協力し合って工夫し、市内の学校同士の情報共有も行いながら、横のつながりを意識して進めていきたいと思いをします。

1回目の運営委員会でお伝えしましたように、本委員会は本日この場をもって閉じさせていただきますが、それぞれの立場でのご意見を引き続きお願いしたいと思っております。

では、これを持ちまして、令和6年度第2回小牧市総合プラン運営委員会を閉会したいと思います。本日は、お忙しい中、ありがとうございました。